指針第２号様式

地 球 温 暖 化 対 策 実 施 状 況 書

１　地球温暖化対策事業者の概要

地球温暖化対策事業者（届出者）の名称	東海テレビ放送株式会社
地球温暖化対策事業者（届出者）の住所	名古屋市東区東桜1丁目14番27号
工場等の名称	東海テレビ放送株式会社　本社ビル
工場等の所在地	名古屋市東区東桜1丁目14番27号
業種	情報通信業
業務部門における建築物の主たる用途	事務所
建築物の所有形態	自社ビル等（自ら所有し自ら使用している建築物）
事業の概要	放送事業（番組制作および送信など）
計画期間	令和4年4月1日　～　令和7年3月31日

２　地球温暖化対策実施状況書の公表方法等

公表期間	令和5年7月31日　～　令和5年10月29日		
公表方法	○	掲示閲覧	（場所）　東海テレビ放送株式会社　本社ビル1階　防災センター
		ホームページ	(HPアドレス)
		冊子	(冊子名・入手方法)
		その他	(その他詳細)
公表に係る問合せ先	０５２－９５４－１１１２		

指針第２号様式

３　地球温暖化対策の推進に関する方針及び推進体制

（１）地球温暖化対策の推進に関する方針

当社は地球環境を守ることの重要性を認識し、地球温暖化対策をはじめ、事業活動全般において地球環境を守るための様々な対策を講じ、持続的な発展が可能な社会の実現に貢献します。
１．省資源・省エネルギー活動の推進
事業所で使用する電気、燃料等のエネルギー使用量を令和６年度までに令和４年度に比べて３％削減します。
２．環境に配慮した自動車の利用の促進
事業所で使用している自動車の燃料を令和６年度までに令和４年度に比べて３％削減します。
３．従業員等への環境教育と社外への環境コミュニケーションの推進
従業員に対し具体的な資源削減の方法を提示するなど環境教育を進め、社外に対しては環境情報の公開を進めます。

（２）地球温暖化対策の推進体制

総務局長
↓
総務部長
↓
各所属長
↓
全従業員及び当社業務に従事する者

指針第２号様式

４　温室効果ガスの排出の状況

計画期間　１　年度目（令和　４　年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		2,995	t-CO_2
（温室効果ガス排出量（二酸化炭素換算）①を除く）	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO_2
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO_2
	④メタン		t-CO_2
	⑤一酸化二窒素		t-CO_2
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO_2
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO_2
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO_2
	⑨三ふっ化窒素		t-CO_2
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO_2
温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）		2,995	t-CO_2

５　温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

（１）温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和　3　年度		令和　6　年度		令和　4　年度		令和　5　年度		令和　6　年度	
温室効果ガス総排出量	3,103	t-CO_2	3,010	t-CO_2	2,995	t-CO_2		t-CO_2		t-CO_2
削減率（対 基準年度）			3.0	%	3.5	%		%		%
温室効果ガスみなし総排出量						t-CO_2		t-CO_2		t-CO_2
削減率（対 基準年度）						%		%		%

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和　3　年度		令和　6　年度		令和　4　年度		令和　5　年度		令和　6　年度	
原単位あたりの排出量										
削減率（対 基準年度）				%		%		%		%
原単位あたりのみなし排出量										
削減率（対 基準年度）						%		%		%

（２）進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

コロナ対策による換気がある程度落ち着いたため、空調機や送排風機に伴うエネルギー使用量が減少。また、社内のPCやコピー・複合機等を省電力タイプのものに更新し、一部蛍光灯をLED照明に変更したため電力使用量が減少した。

備考１　温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。

備考２　温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。

備考３　原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。

備考４　温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再生可能エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

指針第２号様式

６　温室効果ガスの排出の抑制に係る措置の実施状況

（１）自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標	取組の実施状況
省エネルギー・省資源の実践《冷暖房》	冷房温度は２８℃、暖房温度は１９℃を全社に徹底する。夏季はブラインド等を利用し室内の温度上昇を防ぐ。冬季は、出入り口を可能な限り閉め室温低下を防ぐ。		冷房温度は２８℃、暖房温度は１９℃を全社に徹底する。夏季はブラインド等を利用し室内の温度上昇を防ぐ。冬季は、出入口を可能な限り閉め室温低下を防ぐ。
省エネルギー・省資源の実践《照明》	使用していない部屋や昼休み、時間外の消灯を徹底する。廊下、階段室等で可能な限り間引き消灯する。蛍光灯照明を順次LED照明に変更していく。		使用していない部屋や昼休み、時間外の消灯を実施。廊下、階段室等で可能な限り間引き消灯する。蛍光灯照明を、一部LED照明に変更。
省エネルギー・省資源の実践《ＯＡ機器》	パソコン、コピー機、テレビ等について離席時・退社時の電源オフを徹底する。		パソコン、コピー機、テレビ等について離席時・退社時の電源オフを実施。 パソコン、コピー機更新時に省電力の機器を導入。
自動車に対する対策	自動車を利用する時はアイドリングストップ、エコドライブを実践する。 中継車に触媒などを装着し、排ガス対策をする。		アイドリングストップ、エコドライブを実施。

指針第２号様式

（２）再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア　計画期間　１　　年度目（ 令和　４　年度）における利用の状況

導入年度	設備等の種類	概要（規模、性能、発生エネルギー量等）

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

区　分	再生可能エネルギーの種類	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
電　力		t-CO_2
熱		t-CO_2

（３）環境価値（クレジット等）の活用の状況

計画期間　１　年度目（ 令和　４　年度）におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
		t-CO_2
		t-CO_2
		t-CO_2
		t-CO_2

（４）みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量（みなしの削減量）の合計

t-CO_2

（５）その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

・雨水を再利用してトイレの排水に使用する。
・社内ＬＡＮの利用で社内文書の削減を図る。
・両面コピーや２アッププリントを利用し紙のリサイクルを更に徹底する。
・文房用具等をグリーン購入法の対象商品に切り換える。
・機器更新の際は、省電力型のものを採用する。
・極力エレベーターを使用せず、階段で移動するよう心がける。

（６）「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

・各部毎にノー残業週間を設定し、定時退社に努める。